

石巻中心部の復興とその課題

姥浦道生

東北大学工学研究科都市・建築学専攻

ubaura@tohoku.ac.jp



石巻市の概況

- ❑ 2005（H17）年1市6町による合併
- ❑ 人口：137,305人*（宮城県第2位）
- ❑ 面積：554.6km²（宮城県第4位）
- ❑ 世帯数：62,259世帯*（宮城県第2位）
- ❑ 高齢化率：34.3%*（宮城県：21位）
- ❑ 主要産業：製造業（水産加工、製紙）、建設業、小売・卸売業

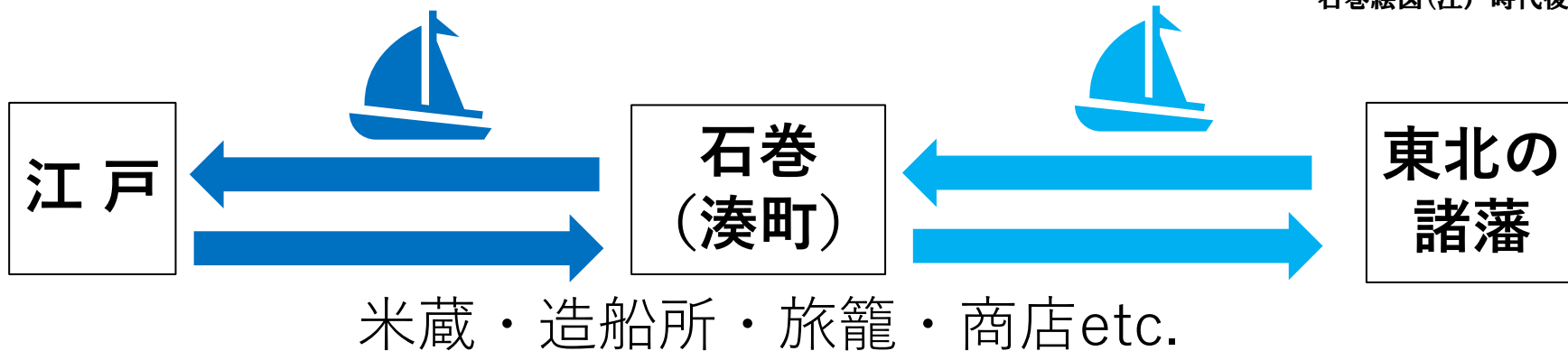


©(公社)3.11みらいサポート

中心市街地の歴史：川湊としての発展



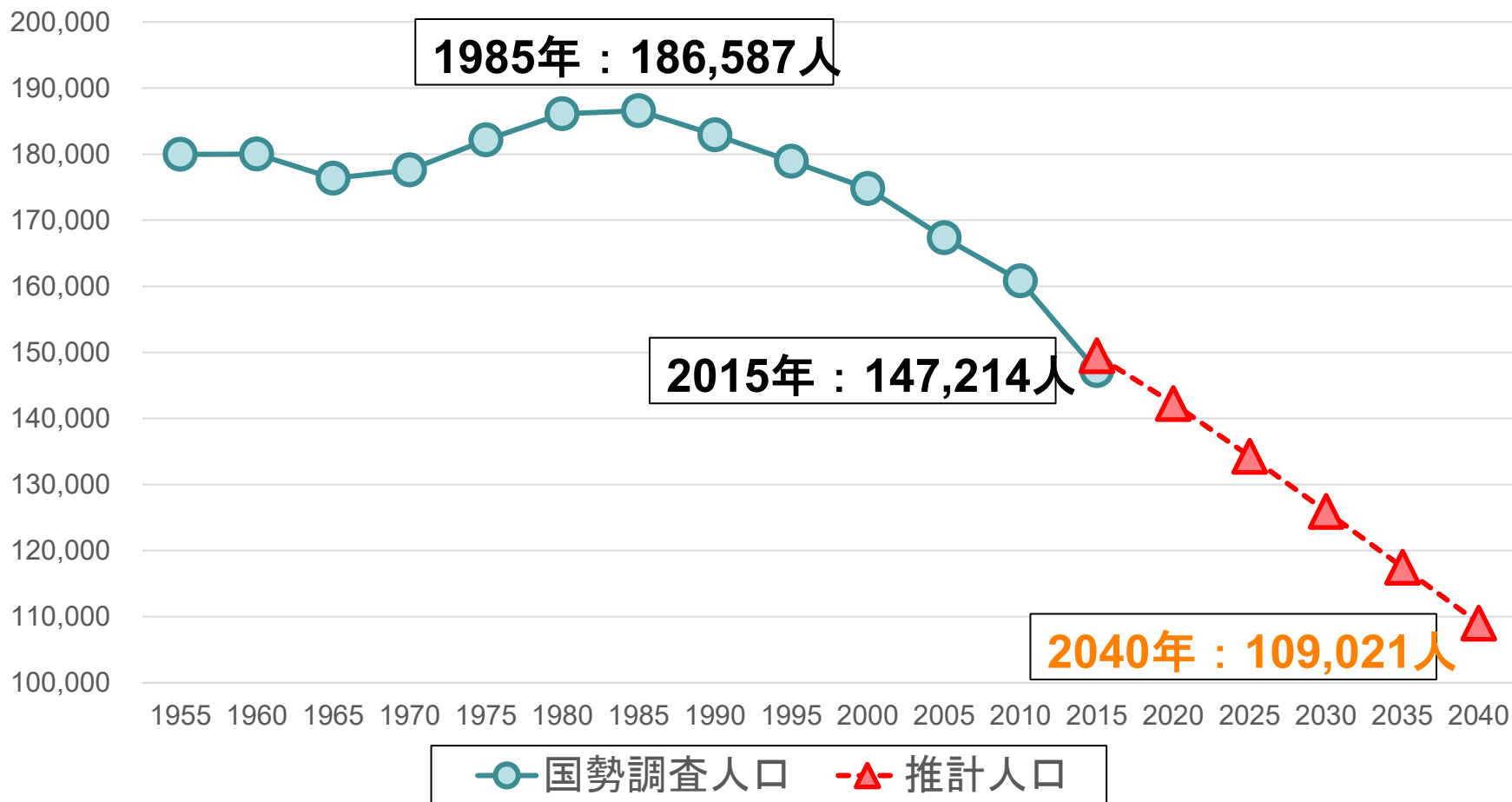
石巻絵図(江戸時代後期)





人口推移

人口(人)



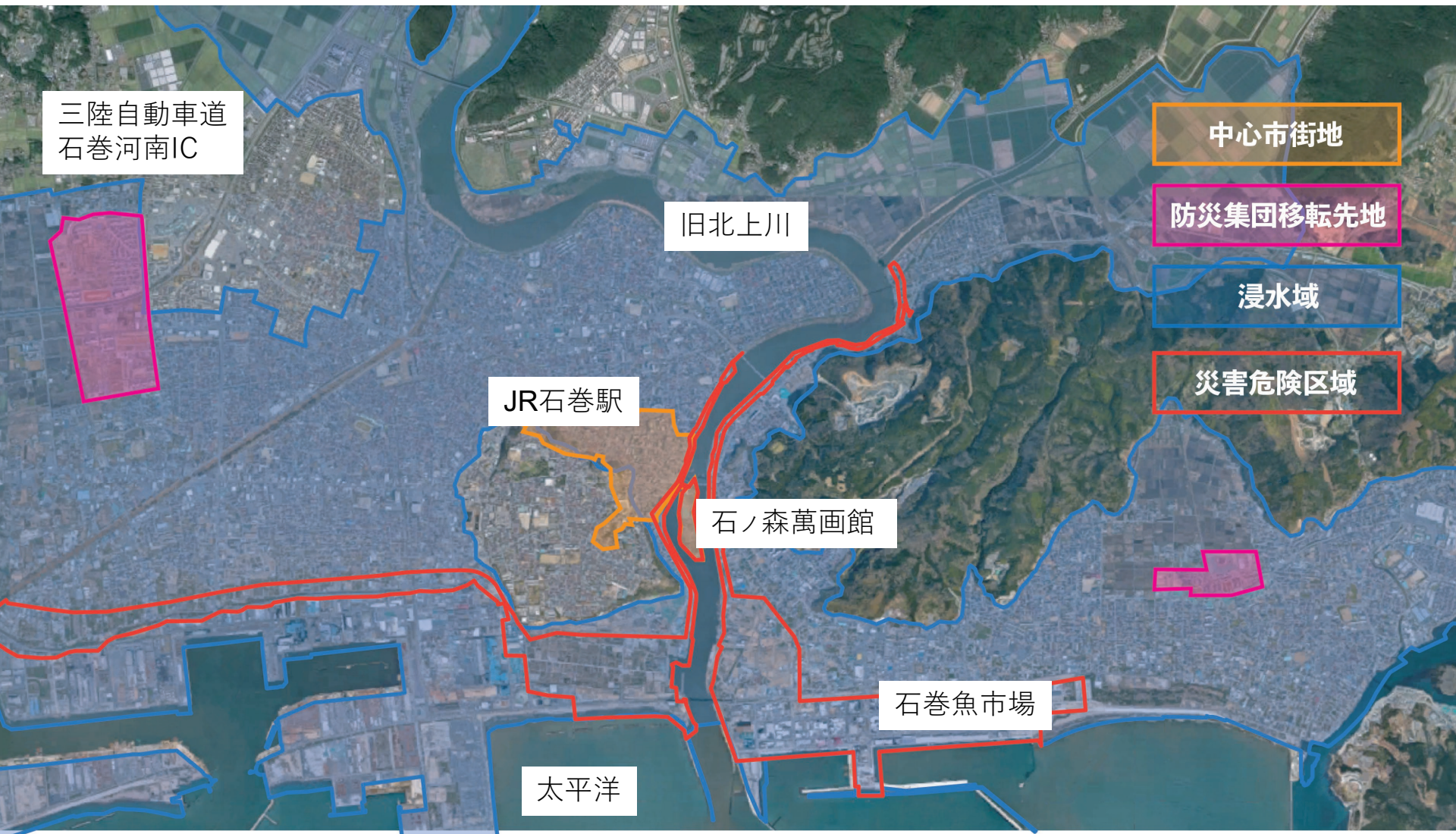
石巻市人口:国勢調査より

市人口(2015年推計):「日本の市区町村別将来推計人口」(平成25年3月推計)

国立社会保障・人口問題研究所



石巻市街地：広がりすぎた市街地



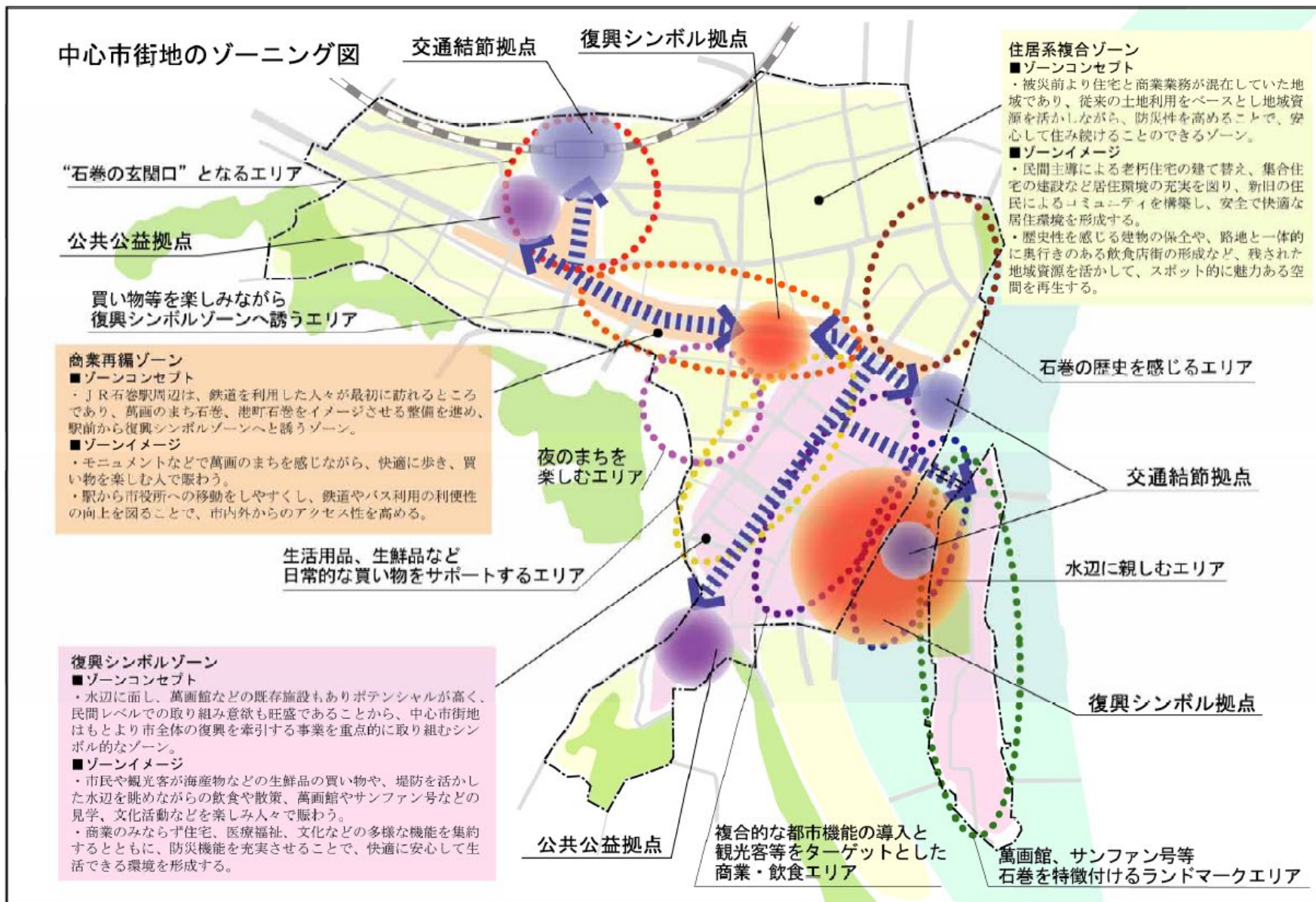


震災





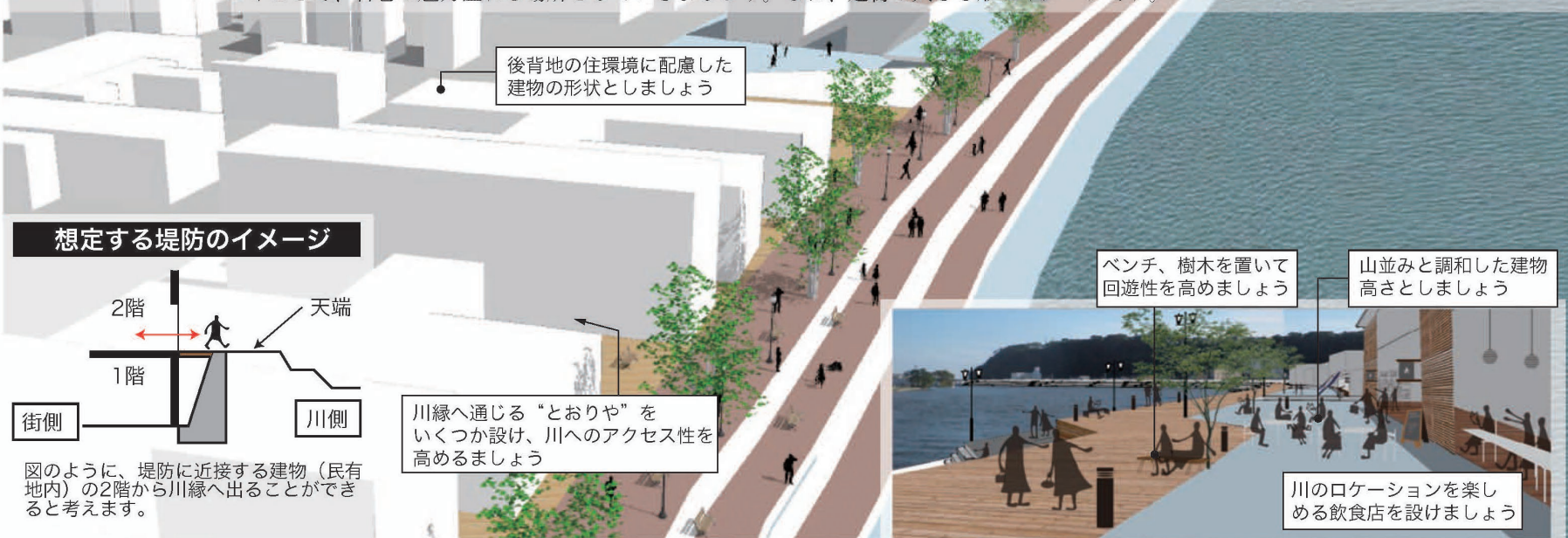
「石巻市中心市街地の復興まちづくりへの提言」 (2011.09)



重点ポイントの街並みづくりのルール

川沿いのルール

ワークショップを通じて、川沿いの街並みづくりのルールとして以下の通りまとめました。これらに配慮した街並みづくりをしていくことで、石巻の魅力溢れる場所としていきましょう。なお、建物の大きさ形はイメージです。



1. 建物の正面

- 川の水面、堤防ラインを引き立たせるため長く連続する立面には分節を入れましょう。
- 川のロケーションを楽しめるよう、また店舗の中の様子を外からもわかるよう、川に面する部分は積極的にガラス張りや大きな窓を用いましょう。
- 庇や看板などには積極的に地場産品を用い石巻の魅力を発信していきましょう。

2. 堤防上の演出

- <建物前面の設え>
- 前面に商品を陳列する、オープンカフェとする等公共空間へ店舗の滲み出しを図りましょう。
 - 街灯や店舗の照明を共通のデザインや色とすることで、美しい夜景を演出しましょう。
- <堤防上の設え>
- 川沿いのロケーションを引き立てる街灯や植木等を置き、また、それらを楽しめるベンチ等を置くことで回遊性を高めていきましょう。
 - 堤防と建物の接続部分はバリアフリーとし、舗装なども連続性のあるものとしましょう。

3. 建物の用途と高さ

- <建物の用途>
- 1階は駐車場や商店等非居住の用途としましょう。
 - 2階部分には石巻の魅力である食・海産物などの特産品を扱う物販店、川沿いの景観を楽しめる飲食店、市民の憩いの場となる広場を設けましょう。
 - 安全性が確保された住居、医療施設等の拠点整備を進めましょう。
- <建物高さ>
- 日和山の山並みと調和した高さとしましょう。
 - 川に面する部分では歩行者に圧迫感を与えないよう突出した高さの建物は控えましょう。

4. 後背地との関係

- 日の光を遮らない建物高さとする等、後背地の住環境に配慮した建物の形態としましょう。
- 駐車場は街区内側に設けるか、通りに表出しないような設えとしましょう。
- “とおりや”のように、私有地にも川沿いへの接続路をわかりやすいサインと共に設けましょう。

「街なか復興ビジョン」 (2013.03)



「街なか復興ビジョン」 (2013.03)

6. プロジェクトの展開のイメージ

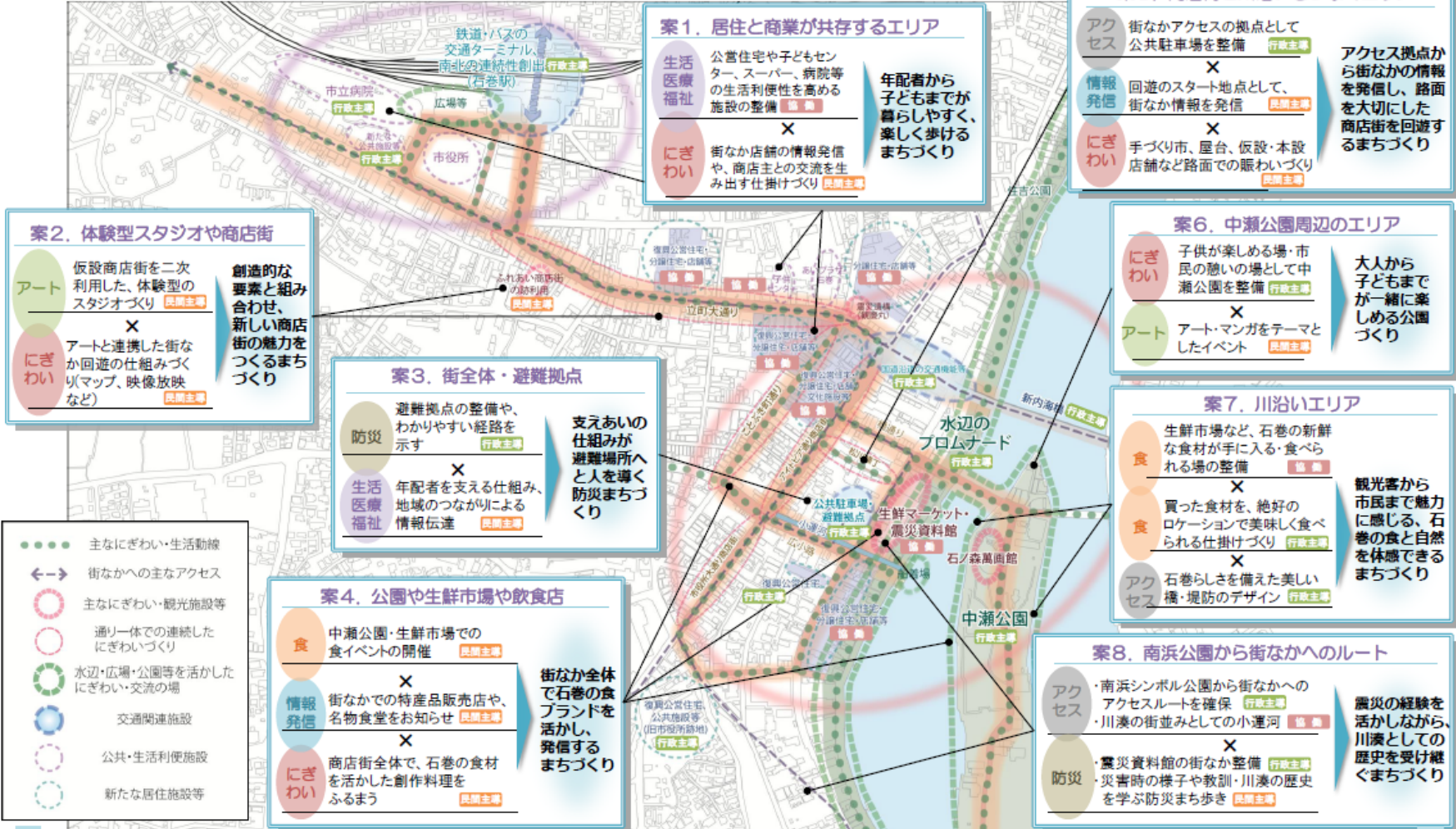
一プロジェクト同士のつながりをつくりながら、ソフトとハードが一体となったまちづくりを進めます一

各プロジェクトは、それぞれを単独で進めるのではなく、プロジェクト同士の連携を図り、人のつながりを生みながら進めていきます。これにより、街なかの復興をスピード感を持って進めることができます。同時に、それぞれのプロジェクトの実現の舞台となる場所の整備も進めていくことで、“ソフトとハードが一体となったまちづくり”を進めます。

プロジェクトの
つながりをつくる

+ ハードで
展開する

✓ ソフト・ハードが一体となったまちづくりのイメージ



- 主なにぎわい・生活動線
- ←→ 街なかへの主なアクセス
- 主なにぎわい・観光施設等
- 通り一体での連続したにぎわいづくり
- 水辺・広場・公園等を活かしたにぎわい・交流の場
- 交通関連施設
- 公共・生活利便施設
- 新たな居住施設等

「街なか復興ビジョン」 (2013.03)

7. 街なかでの過ごし方

一プロジェクトを進めることで、様々な世代が住み・働き・楽しめる街なかを目指しますー

今後の街なかは、商業や観光だけではなく、様々な世代が働き・住み・楽しめる場としていくことで、郊外とは違う街なかならではの魅力を作り出すことが大切です。街なかに住む市民、街なかを訪れる市民、観光客などの様々な世代の視点から、各プロジェクトや場所の整備を進め、訪れたいと思われる街なかを目指します。



A 街なかにすむ人(子育て世代)

- ①街なかの自宅から歩いて子どもセンターへ子どもは友達と遊ぶ約束
- ②ママは商店街の掘り出し物をチェック
- ③歩いて中瀬公園へ行き、お昼のお弁当。食べ終わったら、芝生広場で追いかけて
- ④帰りは生鮮市場と商店街で買い物

B 街なかに住む人(年配者)

- ①午前中は市立病院へお見舞いと市役所へ
- ②商店街の習い事教室で、お昼かねて仲間とおしゃべり
- ③午後は川風を感じながらゆったりお散歩。途中、住吉公園で休憩
- ④帰りに商店街で夕飯のお買い物。家が近いから荷物があっても楽チン

主な通りでの過ごし方

すいぶん人と増えたもんじゃな。お、そろそろ見守り隊の方が来る時間だ。

子どもが遊んでる間に私はママ友とお茶会っとな帰りに夕飯の食材を買ってこよう。

街なかに若者向けのお店が増えてデートも楽しくなったわ

さっきのお店で紹介されたレストランはこの奥だな。

今日のデッサン教室では何を描こう？立町大通りなんかいいかな。

子どもセンターに遊びに来てるかな？



C 街なかへ来る人(石巻市在住)

- ①車を街なかの駐車場に止めて、街なか散策スタート
- ②家族みんなで食事。今日は街なかの老舗店
- ③子どもたちは中瀬公園でのワークショップに参加。パパ・ママは川べりでお茶タイム
- ④街なかギャラリーで子どもたちの作品を鑑賞しながら散策し帰宅

D 観光に来た人

- ①石巻駅へ到着。観光案内所で街なかマップをもらい、まずは商店街散策
- ②商店街を通過、お昼は生鮮市場で海鮮丼
- ③石ノ森萬画館や中瀬公園を楽しんだ後は、川湊を感じながらのお茶タイム
- ④街なかのホテルにチェックインしたら、夜は地元の食と人に出会える飲食店街へ

川沿いで過ごし方

この地割は昔からあるのかしら？今日はアート外もあるみたいだし、商店街も見てこよう。

食のサミットに参加！石巻の郷土料理ってたくさんあるのね。

商店街も公園も市場も行ける、便利な駐車場ができたなあ。

にぎやかな場所も、静かな場所も、公園も、船着場もあるpromenadeの散歩は楽しい。

今日は中瀬公園の野外ステージで音楽イベント！

この広さなら、子どもも思いっきり遊べるわ。

川や街を見ながら休憩できる、お気に入りの場所。

石ノ森萬画館を見に来たけど、他にも見るところがたくさんあるのね。



石巻テラス（中央三丁目1番地区／市街地再開発事業／平成28年1月完成）



きょう街（立町二丁目5番地区／市街地再開発事業／平成28年10月完成）



リバーサイドMOTOMACHI（中央一丁目14・15番地区／市街地再開発事業／平成28年10月完成）



COMICHI石巻（松川横丁／優良建築物等整備事業／平成28年9月完成）

（街づくりまんぼう荻谷氏資料）

震災から10年でほぼ全ての復興事業が完了



かわまち交流センター（平成30年9月完成）



石巻市立病院（平成28年9月完成）



旧観慶丸商店（平成29年11月完成）



かわまちオープンパーク（令和元年10月完成）

(街づくりまんぼう荻谷氏資料)

震災後に
新しくできた
再開発ビル

七十七銀行

村田大興の掘世街

(街づくりまんぼう荻谷氏資料)

まるみ屋

← 3年ほど前に閉店

↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑ 興の極世街

(街づくりまっぽう荻谷氏資料)

震災後、道路拡幅事業により
全面的に建て替え
もともとの建物の壁面位置



1/3近くが空き地

中央一大通り
商店街

いしのまき元気いちば 2017年にオープンした物産販売店



震災後にできた再開発ビル



街づくりまんぼうの本社
石ノ森萬画館

昭和中期くらいまでは
この辺りが街の中心部だった

元気いちば

昔は造船所とかあった

なかぜ
中瀬

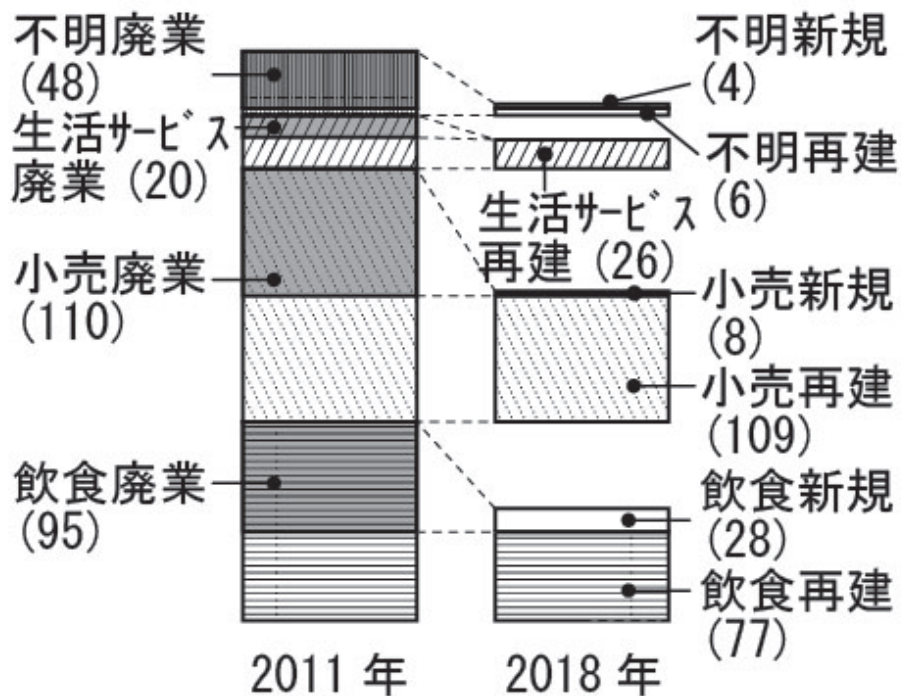
三ノ川

太平洋
2kmくらいいと海



中心市街地の店舗数は半減したまま

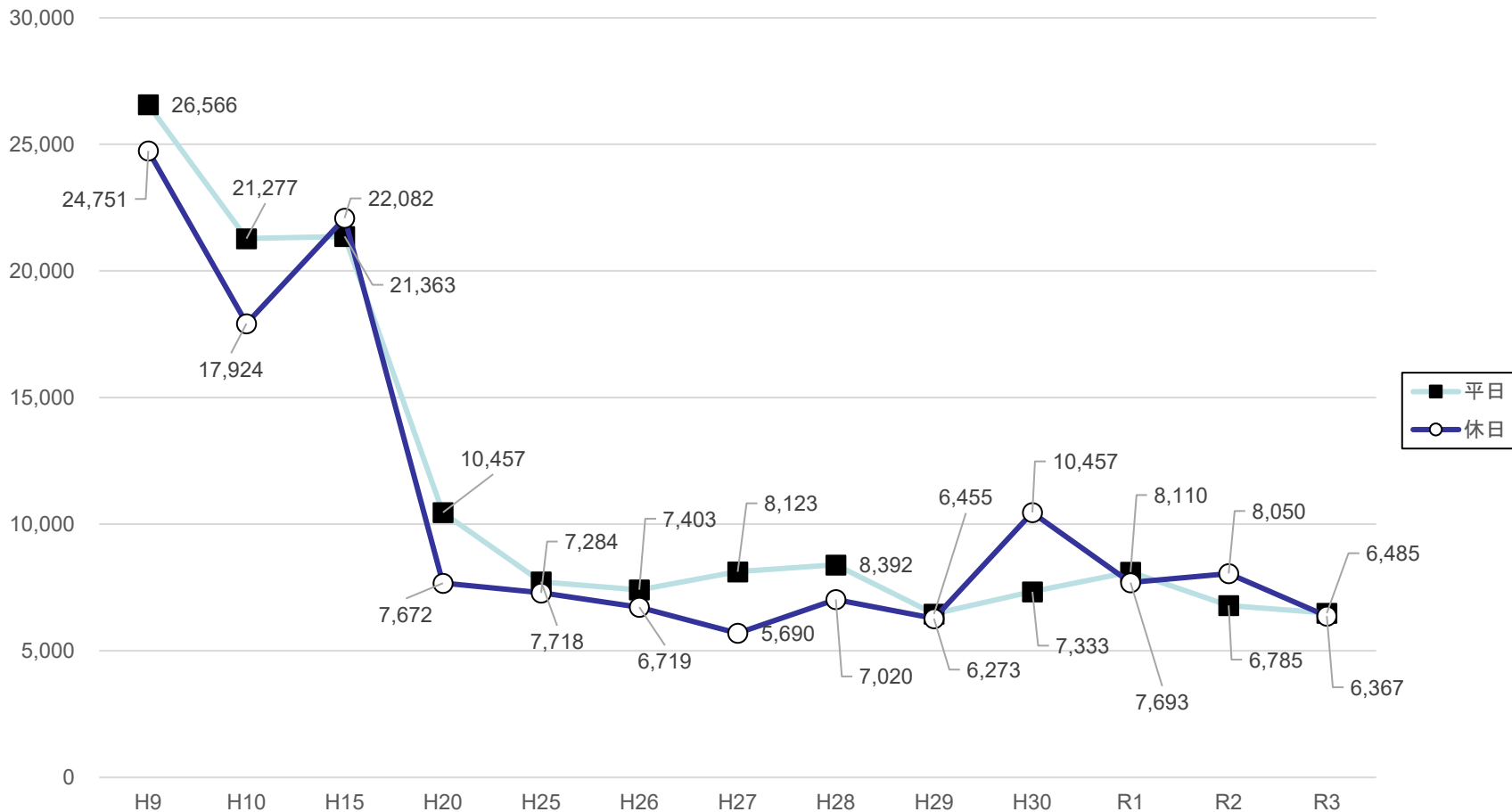
	全体		中心市街地	
	2011	2018	2011	2018
飲食	608	397 (65.3%)	172	105 (61.0%)
小売	1,000	659 (65.9%)	219	117 (53.4%)
生活サービス	514	376 (71.2%)	46	26 (56.5%)
不明	245	82 (33.5%)	55	10 (18.2%)
合計	2,369	1,516 (64.0%)	492	249 (52.4%)





歩行者通行量は微増⇒微減

中心市街地12地点における歩行者通行量の推移



石巻市復興まちづくり計画（市街地部）

安全・安心なまちづくり

住宅地の整備



中心市街地の整備

○石巻駅周辺(市立病院・津波復興拠点)



○立町〜中央(市街地再開発等・かわまち交流拠点)



(平成28年3月見込み)
※完成時期等は変更となる場合があります。

凡例			
津波防衛施設			
防衛区画	工事区画	工事予定区画	
河川堤防	●●●●	●●●●	●●●●
高規格道路	●●●●	●●●●	●●●●
防災緑地	●●●●	●●●●	●●●●

その他	
住宅地の整備	学校の復旧
産業用地の整備	高等学校の統合
商業のシンボルとなる公園	消防署
主要避難道路	保育所・幼稚園
大規模施設の整備	支所
高台避難場所	必要復元施設
水辺の緑のプロムナード	復興公営住宅
水辺の緑のプロムナードの拠点	復興公営住宅(浄水施設も兼ねる)
津波避難タワー	津波避難ビル

※完成済みを赤線で表示

市立病院の整備

産業用地の整備

かわまち交流拠点整備

復興のシンボルとなる公園





別紙① 受賞箇所の取組及び評価

令和4年度 かわまち大賞



かわまち

いしのまきちく

石巻地区かわまちづくり

【題名】かわと共に発展する石巻市のまちづくり

【河川】北上川水系・旧北上川（一級河川）





かわまちエリア

かわまちづくりの概要

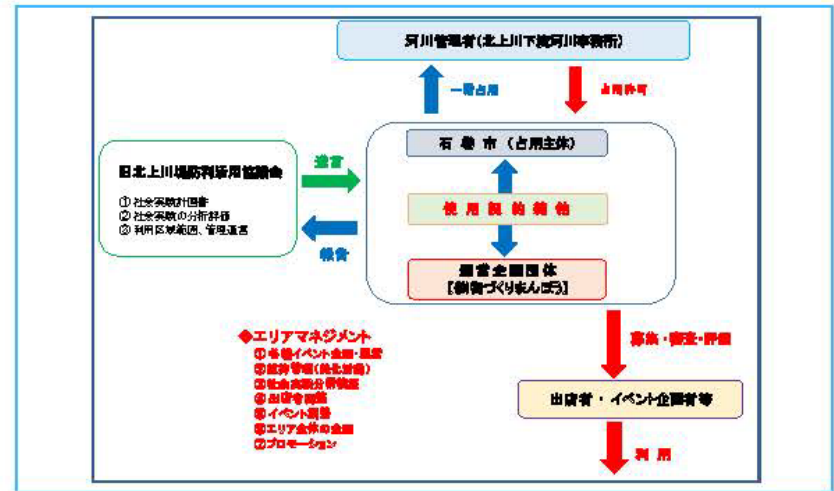
- 東日本大震災後の復興まちづくりとして無堤部区間への堤防整備とあわせてかわまちづくりを実施し、市街地に隣接する区間では堤防天端を拡幅し、愛称「かわまちオープンパーク」として定期的にイベントを開催し、堤防上にキッチンカーが出店する等、新たな観光・交流拠点の場となっている。
- 堤防に隣接する「いしのまき元気いちば」は、堤防背面に盛土と直立擁壁を設置することで、最大17m幅の「堤防一体空間」を創出しており、堤防から隣接する商業施設の2階部分に直接出入りできる。

評価のポイント

- 震災直前に策定したかわまちづくり構想を継承し、河川堤防上の利活用に配慮した整備のほか、様々な関係主体がかわまちづくりのプロセスに参画しているなど、かわとまちをつなげた賑わい・憩いの水辺づくりは高く評価できる。また、施設の構造的に優れたデザインの高さ、石や素材の選び方など、細部にまで様々な工夫が施されていると評価できる。
- 元気いちばは観光客だけでなく、市民にも日常的に利用されており、背後の復興公営住宅や民営住宅の整備と併せて河川空間が整備されたことで、まちへの波及効果も大きい。かわまちづくりの取組みが復興まちづくりに大きく寄与していると評価できる。

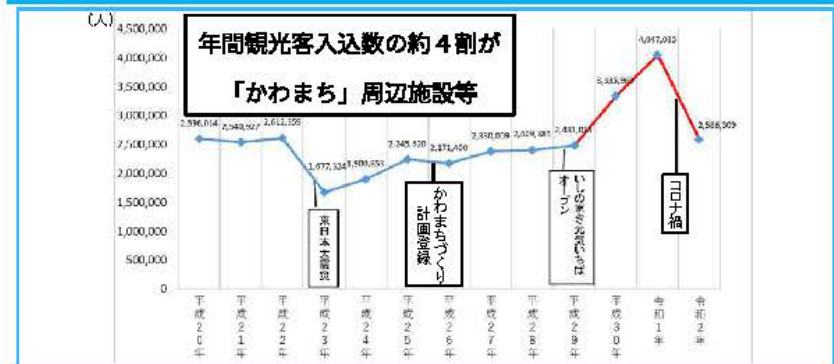
体制

- 推進主体：旧北上川河口かわまちづくり検討会、旧北上川堤防利活用協議会、旧北上川水面利用者協議会



管理運営体制図

効果



石巻市全体観光客入込数推移

問合せ先：石巻市河川港湾高規格道路整備推進課

TEL：0225-95-1111

E-Mail：ishwpromo@city.ishinomaki.lg.jp



■ 成果？

- インフラ等の整備
 - かわまちエリア等の整備
 - 再開発事業とその限界
- 居住人口の（多少の）確保
- （蛇田とは違う）商業拠点の整備

■ 課題

- 空き地の発生（顕在化？）
→不動産（土地）問題／一時利用
- （若い）人のコラボ
- 居住人口の維持
- “新産業”？
- 復興の街づくりから平時の街づくりへ